

子育てを諦めず 子供の未来を信じれば 必ず道は開けます

小宮光絵さん(NPO法人「地域と笑顔の親の会・絆」 代表)

素直にすくすくと育ってきた子供が、思春期に入ると、急に不登校になったり、また非行、引きこもり、家庭内暴力など様々な問題を抱えてしまうことは少なくありません。

私自身、2人の年子の息子が非行に走ってしまった経験を持っています。今振り返ると、それは私が子供たちを抑圧してきたことに原因がありました。3歳のころから、楽器、スポーツ、学習塾と様々な習い事をさせ、情緒も知能も運動も万能な子に育ってほしいと思っていたのです。でも、そんな不完全な子なんてい

ないんですよ。理想にあてはめようとすれば当然無理が生じます。親の背丈を超えるころになると、その抑圧から逃れようと反抗したり、批判したり、無視したりして、子供はバランスを取ろうとするので。

わが子が非行グループに入ってしまったとき、学校からは仲間と引き離すように強く言われました。でも、息子は、居心地がいいからそのグループにいるわけで、友達とは仲間意識を強めていく一方。ダメだといくら言っても、仲間と引き裂くことはできません。「たむろ」するた

めに出かけていく息子がどんな仲間と何をしているのかを知りたい一心で、友達を家に連れてくるように言いました。夜中に仲間を連れて帰ってくる、どんなに遅くとも温かいご飯とお味噌汁で子供たちを迎えました。雑談をしながら話してみると、一人一人はみない子なんです。

しかし、たくさんの非行少年たちが家に入入りするようになると、地域からも学校からも奇異の目で見られるようになってきました。夫からも、「どうしてこんなことを許しておくんだ」と叱責を受けましたね。弟への影響も心配でしたが、突っ走っている兄を全力で留めることが急務で、放っておくことはできなかったんです。全ての人を敵に回しても、この子を修正させるのが親の責任と心に誓い、夫とは離婚し、子供たちと向き合いました。

やがて、中学卒業のころには、息子自身もずっとこのままではいけない、と気づくようになりました。16歳になると、アルバイトができるよ

うになり、仕事を通じ、次第に自覚も出てきました。そうして、22歳で飲食店の経営者となり、弟も服飾専門学校卒業後、アパレルの仕事につき、今では、社会人として立派に働いています。

息子たちは極端な例ですが、思春期には表現の違いこそあれ、危機は何かしらあるものです。大人への脱皮の時期には、秘密を持つたり、親と距離をとったりすることはむしろ当たり前のことで、その過程を通して自我が確立していくのです。そのときに、大切なのは、子供を否定しない、批判しないということ。子供の話はたとえ間違っていると思ってもささげらずに全部聞いてください。その上で、「お母さんはこう思うけれど君はどう思う？」と自分で考えさせなければなりません。時には小さなウソには目をつぶり、理解を示してあげる大らかさも必要です。大人だって職場で嫌なことがあれば愚痴を吐ける仲間と一杯飲んだりしてバランスを取ります。子供にもストレスはあるし、子供だってバランスを取りたいはずなのです。

長男が17歳になった時に、子供と向き合い、多くの非行少年たちと接



親は子供と友達になってはいけないと思います。親としてのケジメを持ち、親としての意見を伝え続けていかなければなりません。

してきた自分の経験を伝えるために「親の会・絆」を設立しました。悩んでいたときに、相談する専門家はいても、リアルな体験を話してくれる人がいなかったからです。活動を通じて感じるのは、親は、学校や、友達、または子供自身のせいにして、自分が間違っていることはなかなか認めようとしなないということです。それでも、親自身が変わり、子を諦めず、見放さなければ、どんな子供も必ず立ち直れると信じています。

思春期のトンネルを抜けても親業はまだ続きます。子供は親の言うことは聞きませんが、親の真意はするのです。ですから私自身がしっかりと生き、人生の先輩としてこれからは、後ろ姿を見せていかなければならないと、日々肝に銘じています。

思春期の子育てに悩む親御さんに伝えたいこと

思春期に子供が秘密を持ったり、親と距離を置いたりすることは当たり前。信頼し、子供の話を聞き、親としての意見を伝えました上で、子供自身に考えさせましょう。ガミガミ言うてよいことはありません。

子供は家庭だけでなく、学校や地域で育てるもの。私は今では少なくなった「地域のおせっかいおばさん」でいたいと思っています。

Profile

自身が、不登校から非行グループの道に足を踏み入れてしまった2人の息子を見守り続け、更生させた経験から、平成17年に「NPO法人子育て支援 親の会・絆」を設立。現在では、2人の息子に支えられ、活動を続けている。